

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	プロダクトデザイン総合講座	
科目基礎情報					
開設学科	プロダクトデザイン科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間	金曜3時限～	授業形態	講義
教科書/教材	教科書：プロダクトデザインの基礎／参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。				
担当教員情報					
担当教員	伊藤 恒平		実務経験の有無・職種	有・デザイナー	
学習目的					
この科目を受講する学生は、1年時のプロダクトデザイン理論で習得したデザインの実施企画力を、より実践的に踏み込み、プロダクトデザイン全般に関する知識を学びます。これから経験していく仕事の現場で、役に立つ知識と考え方を学び向上できるようになる。プロダクトデザイン理論から「商品開発」に関連する知識を体系的に理解し、デザイン思考を活用できるよう、コンセプト立案から実施に至るまでの一連の行程、手法、時間的計画をまとめる力を付けことができるようになるのがねらいである。					
到達目標					
この科目では、学生が、プロダクトデザインの基礎知識を学んだ後、背景・社会・ビジネス・プロセスのカテゴリーからプロダクトを理解して、問題発見型のデザインを軸に、各テーマを選び、それらの解決、提案、企画力を身につけること、ディスカッション、ブレインストーミングを実施して、その成果をまとめてプレゼンテーションします。社会で活動するために必要な知識力と理解力を具体的に修得すること、自分の理論の確立することができるようになることを目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、講師からのテーマの解説を受けます、内容によって、個人ワークやグループワークで取組み、授業を進める。授業中の学生間・教員と学生のコミュニケーションから学びを深め、学生の「プロダクトデザインの知識力」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「プロダクトデザイン理論」を自分自身の言葉で語り、思考できるようになることを目指す。				
注意点	この授業では、中級の段階の学生にプロダクトデザイン理論の観点から、プロダクトデザインに触れてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。社会の動き、情報を収集し、プロダクトデザインの今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・レポート	60%	レポート・試験・課題を総合的に評価する		
	ワーク	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1 回～1 5 回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	講師の仕事紹介		講師の仕事からプロダクトデザインを知る		
2 回	デザインワーク①		教員から1 0 のテーマ、各自選び		
3 回	デザインワーク②		同じテーマを選んだ同士で3 から4 人チームを組む		
4 回	デザインワーク③		ディスカッションをして、提案にまとめる		
5 回	デザインワーク④		グループで4 つのカテゴリーで担当に分かれる		
6 回	デザインワーク⑤		カテゴリーの専門チームで作業		
7 回	デザインワーク⑥		元にグループに帰り、提案の見直す 発表する		
8 回	デザインワーク発表 1		グループで発表する		
9 回	デザインワーク 2 ①		教員から1 0 のテーマ、各自選び		
1 0 回	デザインワーク 2②		同じテーマを選んだ同士で3 から4 人チームを組む		
1 1 回	デザインワーク 2 ③		ディスカッションをして、提案にまとめる		
1 2 回	デザインワーク 2 ④		グループで4 つのカテゴリーで担当に分かれる		
1 3 回	デザインワーク 2 ⑤		カテゴリーの専門チームで作業		
1 4 回	デザインワーク 2 ⑥		元にグループに帰り、提案の見直して発表する		
1 5 回	デザインワーク発表 1		グループで発表 全体のまとめ		